

南半球便り（その 31）：双方向の観光へ

9月3日

今まで豪州にいらしたことはありますか？



ロットネスト島のクオッカ（西豪州），カンガルー島（南豪州）



ウルル（北部準州）



大陸縦断列車「ザ・ガン号」(北部準州～南豪州)

日本から観光や出張で来豪された経験を有する方は、実に多数に上るでしょう。近年、豪州から日本に向かう、いわゆる「インバウンド」の観光も注目を集めています。そこで今回は、日豪関係を支える人的交流の重要な柱である観光を論じてみたいと思います。

1. 世界トップの消費額

豪州に赴任するまで私が知らなかったことは沢山あります。その一つは、日本に来訪する外国人観光客のうち、一人当たりの消費額が一番多いのが豪州人という統計です。

2019年暦年

国籍・地域	a. 1人当たり旅行支出		b. 訪日外国人旅行者数注		c. 訪日外国人旅行消費額 (=a×b)	
	(円/人)	前年比	(人)	前年比	(億円)	前年比
全国籍・地域	158,531	3.6%	29,855,742	3.5%	47,331	7.2%
韓国	76,138	-2.5%	5,568,997	-26.0%	4,240	-27.8%
台湾	118,288	-7.3%	4,609,007	2.7%	5,452	-4.8%
香港	155,951	0.9%	2,252,080	4.0%	3,512	4.9%
中国	212,810	-5.4%	7,995,815	23.5%	17,016	16.8%
タイ	131,457	5.7%	1,316,885	16.6%	1,731	23.2%
シンガポール	173,669	0.5%	489,969	12.6%	851	13.2%
マレーシア	133,259	-3.2%	497,655	7.4%	663	4.0%
インドネシア	131,087	-7.3%	410,288	4.2%	538	-3.4%
フィリピン	107,915	-11.5%	609,549	28.8%	658	14.0%
ベトナム	177,066	-6.0%	494,251	27.6%	875	20.0%
インド	157,244	-2.6%	173,692	13.9%	273	11.0%
英国	241,264	9.2%	412,848	27.2%	996	38.9%
ドイツ	201,483	5.1%	229,430	7.8%	462	13.2%
フランス	237,420	10.0%	335,862	10.5%	797	21.6%
イタリア	199,450	-10.8%	162,074	8.6%	323	-3.1%
スペイン	221,331	-6.7%	129,895	9.7%	287	2.4%
ロシア	183,015	-2.8%	118,684	26.8%	217	23.3%
米国	189,411	-1.1%	1,700,805	12.8%	3,222	11.6%
カナダ	181,795	-0.8%	366,758	13.7%	667	12.8%
オーストラリア	247,868	2.4%	610,955	12.7%	1,514	15.5%
その他	221,514	10.9%	1,370,243	15.2%	3,035	27.7%
クルーズ客	39,710	-10.2%	2,026,307	-13.3%	805	-22.2%
全体			31,882,049	2.2%	48,135	6.5%

国籍・地域別の訪日外国人一人当たり旅行支出と旅行消費額（観光庁 HP）

滞在日数を見ても、13 日を上回り、最も長い国民の一つになっています。

要は、日本に長く滞在してお金を落としていく上客なのです。

2. 来訪先

さて、彼らはどこに行くのでしょうか？



日本のインバウンド旅行者が訪れる定番観光地（左上から時計回りで、東京の浅草寺、京都の清水寺、大阪の道頓堀、広島平和記念公園）

東京、京都といった定番メニューは勿論多いのですが、豪州人で目立つのがスキー客です。北海道のニセコ、長野の白馬や野沢温泉が典型です。豪州には標高の高い雪山やスキー場が少ないこともあり、時差のない日本でのパウダースノーに多くのオージー・スキーヤーが魅惑されている模様です。また、日本と豪州は季節が逆なので、豪州人が夏休みの長期休暇中に冬の日本でスキーを楽しむことができるのも大きなポイントとなっています。



温泉を楽しむ野生の猿（長野県 HP）

そこで、豪州赴任前に白馬に足を運び、実態を視察してきました。大学の同級生の阿部長野
県知事から、「白馬に来る外国人スキーヤーのトップは、ダントツで豪州人。もっと連れてき
て欲しい。」との話を聞いていたからでもあります。



残雪の北アルプス



白馬のパウダースノー

行ってみたら、納得。雄大で峻険な白馬三山のあっぱれな立ち姿！その懐の牧歌的な高原で
豪州人家族がサイクリングを楽しむ姿、オーギー・スキーヤーにアピールするデザインのホ
テル・ロッジ、「WAGYU」の文字が躍るレストランなど、白馬ならではの特色が見て取れ
ました。



息を飲むような白馬の大雪原

3. 来客の幅とリゾートの質

この光景を見て、かつて沖縄の離島の市長からうかがった話を思い出しました。近隣の国を念頭に置きつつ、「(当該国からの観光客が増えると) 本土からの観光客が敬遠して来なくなる。」「だからこそ、来訪する外国人観光客を多様化する必要がある。」との含蓄ある経験談でした。



外国人観光客に人気の石垣市のビーチと泡盛（石垣市 HP）

学生時代以来、長野や新潟の種々のスキー場で雪にまみれた私の経験からしても、白馬の「国際的アピール度」は群を抜いているように見受けられました。相次ぐ豪州人の来訪、豪州からの投資によるインフラの整備がリゾートとしての格を高めたと言って、過言でないでしょう。

4. ゴールド・コーストの経験

実は、人と資本の流れがもたらすこのような効用は、日本側の観光地に限られた話ではありません。クイーンズランド州のゴールド・コーストに行った時のことでした。

日本人会や日本商工会議所の方々と懇談した際、「ゴールド・コーストのリゾート・マンション、ゴルフ場、マリーナは、日本からの投資で出来た。」との話をうかがいました。



ゴールド・コーストの高層ビルと海岸，マリーナ

まさに、双方向の観光が、日豪の人的つながりを強め、経済的効果をもたらし、ひいては両国間の関係を強化してきたと言われる所以です。

5. コロナ禍後の世界を見据えて

であるだけに、コロナ禍で観光客が激減してしまった状況は残念で仕方ありません。ゴールド・コーストやケアンズの商工会・日本人会からは、日本からの観光客が来られない状況下で経済的損失が甚大、ビジネス存続の危機に瀕している窮状を打開するために一刻も早く人の往来を認めて欲しいとの強い要望が寄せられています。



ケアンズでのシュノーケリングとシーフード（ケアンズ観光局 HP）

豪州政府としても、NZ やシンガポールに続く旅行制限解除の対象国として、日本がしばしば言及されている状態です。

デルタ株の猛威が日本のみならず、今までコロナ対策が比較的成功してきた豪州をも襲っている状況があります。日豪双方で互いにワクチン接種を鋭意進め、コロナとの「共存」を実態として確保し、人的交流を再開していくことが強く期待されます。

私としても、より多くの日本人が来豪し、豪州人が訪日する日を心待ちにしております。

山上信吾